（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人　社団　昭和会		
事業所名	グループホーム　むつみ苑　桜ユニット		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317－1		
自己評価作成日	令和　元年11月5日	評価結果市町村受理日	令和1年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和　元年11月21日日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体施設との医療面の連携を図り、本人の生活を主体に必要に応じた医療の提供がある。本人の状態に合わせて柔軟に対応することができ、本人の健康面の安心や生活の継続が実現している。認知症においても入居者一人ひとりの特性を理解し、一人ひとりその時々に応じた対応ができるように職員それぞれが意見交換し研鑽を重ねている。生活そのものが本人主体となっており、本人の能力に捉われることなく、本人の意思や希望が実現できるような生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

新道路の完成によりホームと母体医院や菜園などを二分する事態となった後も、入居者のこれまでと変わらぬ通院や野菜の収穫が楽しめるよう法人体制をとっている。建物の裏には有明海を望み、鮮やかな夕日の光景や地域の方からの「まじゃく」の差し入れなども毎年行われており、入居者にとって慣れ親しんだ環境の中で過ごすことは穏やかな日常生活につながっている。また、院長は開設時より毎日各ユニットを訪れ、あらたまって状況を確認するのではなく、ハーモニカを奏でたり、季節の話や時にはマジックを披露するなど入居者や職員とのひと時をもっている。「安心感を与える台所」として菜園の野菜を活用した職員手作りの食事や、安心してゆっくり入ってもらえる入浴など、職員は入居者が笑顔で過ごせるホーム作りに努めている。開設時から変わらぬ支援が今後も継続されていくことを期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念の共有を図り、実践につながるように日々振り返りを行い取り組んでいる。	理念は、開設時から変わらず継続している。ホームでは、理念を共有し、実践につなげていくため、研修時やミーティングで、理念の解釈や理念にもとづいたケアについて職員に掘り下げて考えてもらうようにしている。理念を踏まえた年度の目標としては、入居者と一緒に過ごす時間を意識して取ることとしており、各ユニットごとに職員の得意分野を生かしてレクレーションや料理等を通じて関係性を築けるケアに取り組んでいる。このような取組は運営推進会議でも説明している。	理念を実践するために、毎年度目標を立てて取り組んでいる。この理念や目標を地域や関係者に周知・理解してもらうために、パンフレット又は広報紙に掲載されることも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的な挨拶や声掛けを行い、行事等への参加や協力を働きかけている。	運営規程に、「地域との交流に努めるものとする」と掲げ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。今年度は、野原八幡宮大祭の地区担当の役割を勤め、「風流」楽や「節頭行事」の馬が訪れ、入居者や家族に大変喜ばれている。入居者の外出や散歩の時には地域の方に積極的に声掛けや挨拶をするとともに、納涼祭の開催、近隣の幼稚園児の訪問など、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。年2回地域の清掃活動の参加や、地区の公民館での行事・催しの際は、苑長自らおにぎりづくりや唐揚げ等の差入れを行い、地域の一員としての活動に努めている。	近隣の幼稚園児との交流についてはホームからの訪問交流を実施したり、公民館からの行事・催しの案内については、入居者の意向や状況を勘案しながら、参加について検討されることも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や通院時等の交流の場において入居者の様子や関わり等で親しみやすさが感じられるように心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議の開催を行い、行事や入居者の状況、事業所の課題等を報告し、意見をサービスに反映させている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的にホームで開催されている。メンバーは、区長、市役所、入居者、家族会で、ホームからは、代表者（院長）、管理者（苑長）、ホーム長等が出席しており、特に家族の出席を促している。会議は、行事関係やホームの近況が報告された後、意見交換がなされ、家族から、自分たちも何か協力したいとの話があがっている。それに応えホームは、介護の方法や気を付けていること等を説明しながら、できることをやってもらいたい旨を伝えると、外出支援や居室の掃除等の協力が得られている。会議の内容は、家族会を通じて他の家族にも伝えている。	運営推進会議では、会議ごとに、外出支援、レクレーション、食事、入浴等テーマを定めて、介護の方法や工夫していること、特に気を付けていること等を発信することも良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、議題に限らず、雑談をすることで、顔なじみの関係を築いている。	行政からも、運営推進会議にメンバーとして参加しており、入居者や家族、地域の代表者と直接接することで、ホームの実情を理解してもらうとともに、必要な行政情報を提供してもらっている。また、行政を訪れた際は、担当者と話す時間を設けて、市の情勢や地域でのホームの役割等について意見交換をするなど、日頃から連携を図り、信頼関係を築くように努めている。	行政担当者から、外部評価の結果についての感想、意見等を、次の回の運営推進会議で述べてもらうことも期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解するとともに、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	ホームでは身体拘束を行わないことを前提として、玄関は施錠せず、入居者の安全を確保しつつ抑圧感のない暮らしの支援に努めている。職員は、「ちょっと待って下さい。」の声掛けも前後に「いつまで」等の言葉を添えている。身体拘束廃止委員会での研修や事例検討、年1回のアンケート調査でケアを振り返り、虐待等のニュースがあれば、話題に取り上げるなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、理解することで日頃のケアの振り返りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の実情を理解したうえで、必要な時には利用を支援できるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族が不安や疑問を持たれた時は説明できるように職員一人ひとりが理解できるように努めている。また、すぐに相談できる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等、家族間で話し合いをしやすく、意見を言える機会をつくっている。出された意見は運営に反映できるように努めている。	入居者や家族は、運営推進会議のメンバーとして参加しており、外部の人や代表者、管理者に思いや意見等を表せる機会となっている。また、日頃から、入居者の思いや意見等何でも言える関係づくりに努め、言葉で表現できない方は表情や行動を観察して思い等を判断するようにしている。家族も面会時にこまめに声掛けし、ホームだよりにも気になることはないか一筆添え思いや要望等を出してもらえるよう配慮している。出された意見要望等は運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間での意見を管理者とよく話し、可能な範囲で意見が実現されている。	苑長も出席する毎月のミーティングや職員アンケートの意見を収集し、運営に反映させている。ホーム内は日頃から意見の出しやすい環境であり、希望休（連休）の取得に対応し、職員が気兼ねなく休めるようにしている。また、永年勤続表彰を設け、長く力を尽くしてもらうよう、職場環境の充実に力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員が向上心を持って働けるような職場環境の調整に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が実践しやすい研修会の内容や疑問に答える場をつくり、一人ひとりが向上心を持って働けるような支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会への参加や活動を通して、事業所のケアの向上につながるように働きかけている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人をよく理解できるようによく話を聞くことや職員間で情報を共有し、笑顔で接するように心掛けよい関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと等を言いやすいように、本人の情報や必要なものの依頼と小まめに声掛けを行って信頼関係を築けるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がその時必要としていることを見極められるように、関係者への情報の聞き取りや情報の共有を図り、検討する。できる限りの支援ができるように関係各所との連携を図るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているということを意識しながら、入居者一人ひとりと良い関係が築けるように関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に声掛けを行い、介助への協力や家族の関わりを邪魔しないように配慮し、必要に応じて様々な協力の依頼を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生きてこられた時代を大切に思い、その当時の話や入居者の若いころの話を聞くようにし、生き生きと話をされるような場面をつくるように働きかけている。	家族の面会時には入居者との時間をゆっくりと過ごしてもらうよう声かけし、以前からの友人と面会時に外出される方もおられる。9月の四山神社の大祭には、それぞれにお賽銭を手にして参加し、翌年お礼を込めて倍返しのお賽銭を上げるという、地元ならではの馴染みの祭りに出かけている。地元特産の荒尾梨やまじゃくが入居者の食卓にのぼり、使い慣れた化粧品や同じ色の下着を身に付ける方、服のまま就寝するなど、個々の入居者のこだわりも馴染みとしてホームでも引き続き支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がよい関係を築けるように関係性等に配慮しながら関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事への参加の働きかけや、会う機会があったときには挨拶や近況の様子を伺うなど、関係の継続に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向の把握に努め、本人本位に検討した暮らしの実現を支援している。	職員は入居者との普段の関わりから思いを引き出すようにしている。特に、入浴中など1対1になる時間には、言葉を投げかけながら今の思いや要望をしっかりと聞き取るようにしており、言葉での表現が困難になられた方には、これまでの生活ぶりから推察したり、家族の意向と合わせながら本人の思いに近づくよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からよく話を聞くように努め、職員間や家族とも情報が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの把握に努め、情報の共有化に努めている。必要に応じて医療機関との情報の共有も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で意見交換を行い、本人主体の暮らしが実現できるように、必要な支援を検討しながら介護計画を作成している。	職員や入居者を取り巻く人々の声を反映しながら、本人・家族の意向を最優先にプランを立案している。医療的な面は母体医師や看護師、PTなどの専門的な意見を仰ぎ、プランに反映させている。定期的な評価により、入居者の現状と擦り合わせながら、内容の継続や変更を決定している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し、情報の共有化を図っている。また、常にケアの見直しや気づきが共有できるように職員間での意見交換を意識して行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った支援ができるように自分たちにできることや事業所にできること、必要に応じて家族の協力を得てできることを話し合い、実践に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりの必要に応じて地域資源が活用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望や安心を第一に考え、かかりつけ医の受診を支援している。異変時には母体施設での医療が受けられるような体制になっている。	現在本人・家族の希望により殆どの方が隣接する母体医療機関をかかりつけ医としている。また、リハビリ通院は入居者にとって外出の機会でもあり、楽しみにされている。専門医の受診は基本的に家族へ依頼しているが、困難な場合はホームでも柔軟に支援し結果を共有している。歯科については、訪問治療を支援し、職員は毎食後の歯磨きや、呼吸器系への配慮を必要とする方には、小まめな口腔ケアに努めている。	院長は受診に限らず、毎日来苑し、健康状態を確認しながら、入居者と時事やリラックスとなるコミュニケーションの時間を開設時よりもたれている。また、入居者の心身の状況は毎夜、その日の最終報告として、ホームより21時までに当日の状況や気になることなどを院長宅へ報告する体制が取られている。このことは家族の信頼や職員にとっても安心につながっている。変わらぬ支援で入居者の健康を支えていただきたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護職員とのコミュニケーションを密に行い、入居者の情報の共有を図っている。看護職が入居者を理解したうえで関わることで安心した看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は面会の支援を行い、馴染みの関係の継続に努める。母体を通した医療機関との連携により早期の退院への支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	住み慣れた環境での終末期ケアを本人や家族の希望で実施している。安らかな終末が迎えられるように、小まめな声掛けやスキンシップ、尊厳が維持できるようなケアに努めている。	入居時に重度化・終末期支援に関する指針をもとに、これまでの生活を基本として、本人の生活を中心にホームにできうる支援について説明をおこなっている。継続した医療支援が必要になった場合は、母体医院をはじめ医療機関への転院となるが、家族の不安をやわらげるよう連携を図っている。また、家族が看取りの時期にどういう関わりをしたいかなどを聞きとり、思いを共有した支援に取り組んでいる。	重度化や看取り支援を行ったあと、日ごろの観察ができていたかなど、職員間で共有する機会がもたれている。今後も本人・家族の思いを汲み取った日常の生活を支援いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応に備えて、勉強会で学び、実践できるように練習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制や対応について定期的に模擬訓練を行って備えている。	今年度は連絡網を活用した集合訓練や、12月に消防署の参加を得て訓練が予定されている。日頃から法人全体で連携を図っており、火災についてはコンセントの埃やホーム周辺の確認などにも努めている。訓練時に入居者の避難状況を確認する際は、タオルを入り口に掛けるようにしている。災害備蓄として3日分の米・水、ガスボンベなどを確保し、事務所で管理している。	今後は災害訓練を実施する際、家族にも参加を呼びかけ、意見や提案などを受けることや、備蓄リストについて家族へ説明することで安心につながると思われる。取組が期待される。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行い、その時の気持ちを汲み取るように心掛けて対応している。	一人ひとりの人格や尊厳、思いをくみ取った支援を全職員が理解し対応に努めている。呼称は基本的に苗字にさんつけとしているが、自ら希望される呼び方については、家族に了承を得て応じている。身だしなみやおしゃれについても自己決定ができるような環境を整えている。職員の守秘義務については、管理者より指導や周知が図られ、写真の使用など個人情報については、口頭や書面でも家族より承諾を得ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が自己決定できるように意識した声掛けや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の性格やペースを把握し、本人の希望に沿った生活ができるようなケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個々の個性を尊重し、利用者や家族の希望に合わせた理美容の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材をとりいれて、入居者それぞれの嗜好や咀嚼・嚥下機能に適した食事の提供に努めている。また、準備や後片付けへの協力も促している。	献立は各ユニットで旬の食材を活かし家庭的なメニューを心がけ作成し、食材は職員が地域商店などで購入している。また、誕生会には本人の希望食を取り入れ、家族と一緒に祝ってもらうよう案内をしている。入居者は法人菜園で野菜の収穫や食材の下ごしらえ、片付け、干し柿や保存食（梅干し・らっきょう漬け・味噌）など個々に応じて楽しみながら食へのかかわりを支援している。職員も同じものを見守りや介助を行いながら摂っており、「残すと元気が出らんよ！」「ゆっくり良かとよ！」など、入居者同士、気遣い合うやり取りの光景も見られた。	管理者は「台所は安心感を与える所」と語っており、台所の音や匂い、入居者と職員が一緒に食を介する光景からも、ホームの日常が伝わってきた。また、台所の通路に置かれたカボチャや冬瓜をはじめ菜園で収穫された見事な野菜の姿を目にしながら過ごせることも、食への楽しみにつながっていると思われる。継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌や申し送りノート、口頭での情報の共有を図り、入居者一人ひとりの状態の把握に努め支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、一人ひとりの能力に合わせて適切な支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの心身の状態に合わせた排泄の支援を行っている。介助時の排泄状況の情報を共有することでその後の介助の調整を行うように努めている。	現在はリハビリパンツを使用される方が殆どであるが、布パンツで過ごされる方もおられる。夜間のみポータブルトイレやオムツを使用される方など、昼夜の支援方法を職員間で検討し、自立の継続や排せつ用品を減らすように努めている。またポータブルトイレの使用後は昼・夜もバケツを洗浄し、毎日拭き上げ清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の把握に努め、水分の摂取を促すようにしている。また、運動への取り組みを支援し、必要に応じて薬剤を使用し、本人の不調を来さないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状態に合わせて、できる限りで本人の希望に沿った入浴が支援できるように努めている。	入浴は午前を中心に週2～3回、3～4回、毎日など希望や体調に配慮し、1対1で職員とゆっくりかかわり支援している。シャンプー類はホームで準備しているが、中には使い慣れたものを使用される方もおられる。かけ湯もシャワーの他、桶でかけるほうを好むなど個々に応じて対応している。また、浮腫などがある方には足浴やオイルマッサージにも取り組んでいる。	管理者やホーム長は、入浴は情報収集の場でもあり、個々に応じて会話にも工夫していると語っている。明るい浴室は掃除も徹底されており、気持ちの良い入浴につながっていると思われる。継続した取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜間の安眠ができるような室内環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服の内容の把握に努め、内容の変更があれば、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からの情報をもとに、本人の意思を確認しながら家事等への参加を依頼している。また、散歩やレクリエーション等の余暇活動への取り組みも支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい時に行きたい場所へ行けるように支援している。身体状況により、自由に外出できない方も家族と散歩に出られたり、可能な限り本人の外出への希望が叶うように支援している。	日常的な外出としては、隣接する母体医院へのリハビリ通院や、その後は法人医師の管理する菜園に寄り野菜の成長を見たり、収穫をおこなって帰苑している。また、2階ベランダからは眺めも良く、訪問当日も散歩する男性入居者の表情から、いつもの光景であることが窺われた。家族の協力により祝い事（七五三・お孫さんの発表会など）で帰省されるや、知人の来訪後、散歩やドライブに出かける方もおられる。	花見（桜・コスモス）や近日中には芋ほりなど、季節に応じた外出を実施している。今後も家族や地域の協力を得ながら、入居者が戸外に出る機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせてお金をもつことを家族とともに支援している。また、好きなものを買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに黒電話を設置し、自由に利用できるような環境作りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やトイレ等に目印を付け、分かりやすいような環境作りに配慮している。また、居心地がよいような空間作りに心掛けた刺激の調整を行っている。	1階・2階それぞれのユニットは採光や居室の配置など異なるが、昔なじみの調度品や掲示物など職員の工夫により居心地の良さや思い思いの時間が過ごせるようにしている。テーブル席の配置も、介助の度合いや入居者間の相性などを考慮して決定している。2階のユニットからは有明海を望み、入居者にとって心和む光景になっている。1階ユニットの入居者の中には、窓の外に見える歩行者の姿などが視界に入ることで、落ち着かなくなる方もあり、状況に応じてレースカーテンの開閉を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性やそれぞれの居心地の良さ、に配慮してソファを配置し、本人の意思を尊重しながらそれぞれの居場所づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族への協力を得て、それぞれの使い慣れたものを取り入れ、好む居室作りを行い、居心地良く過ごせるように配慮している。	入居後も自分の部屋として安心して過ごしてもらえるよう、持ち込み品については、制限はしておらず馴染みの品などを持ち込んでほしいと説明している。本や時計、鏡、観葉植物などが置かれた部屋や、スッキリとした部屋も見られた。職員は居室内の掃除や天候の良い日は布団干しなど、居心地よく過ごせる環境に努めており、家族の中には面会を兼ねて衣替えもおこなわれている。	持ち込みの品については、今後も具体例を挙げて家族の協力を得ながら、個々に応じた居室環境作りを継続いただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態を把握し、本人の能力が十分に発揮されるような生活が送れるように、適切な支援の実施に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人　社団　昭和会		
事業所名	グループホーム　むつみ苑　（梅ユニット）		
所在地	荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	令和　元年11月5日	評価結果市町村受理日	令和1年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和元年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体施設が医療機関であるので、入居者様の健康管理や疾病管理をご本人の生活を尊重しながら行える。急変時にはワンコールで対応できるので家族の安心へもつながっている。院長が無農薬で野菜作りをされていて、毎日の食事作りに活用している。季節の旬の野菜をメニューに取り入れることで、入居者様にも季節感を味わっていただくことができている。
施設は有明海に面していて海沿いを散歩されたり、夕日が沈む光景を楽しまれ、東には小岱山があり、周りの自然環境にも恵まれている。昔ながらの家具や道具類を配置し、陶器の器や本人の使っていた食器類を使用していただいて馴染みのある環境作りを家族の協力のもと取り組んでいる。定期的に勉強会を行い、職員の知識獲得を図り、質の向上に努めている。地域や家族会との連携や情報交換

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で生活する個人としての位置づけを尊重し、管理者と職員で入居者一人ひとりの生活を理念に即しているか振り返っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への行事の参加の呼びかけや、地域の行事への入居者の参加を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族を通して、認知症における理解を図り、気軽に面会できる環境作りに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の地域における役割を意識し、入居者のケアや行事等での様子や反応を報告し、入居者視点での参加者との意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者との情報交換を行いながら、事業所及び地域の実情とそれに即した施設づくりの意見交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員間で振り返り、困難事例においては協力体制を図り、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の理解と職員のスキル向上、働く環境の整備に取り組み、ケアの現場の状況の把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解し、入居者の必要に応じて家族や関係者と協議し、制度の利用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面の交付と同時に口頭で説明を行っている。その都度理解の確認を行い、締結後も疑問や質問等への対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議への参加の呼びかけや参加時の意見の聞き取りを行い、面会や面談時の家族、本人の意見の確認と情報の共有を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとで意見の交換を行い、ミーティングや会議で意見として提案する。取り上げやすいものは運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働きやすいように、職員個々の意見や要望、状況を聴取し、職場環境の調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力に合わせて、研修への参加や資格取得、様々な物事へのチャレンジを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他事業所間の研修会や交流会への参加や法人内の他部署との意見交換会を通じて同業者との交流を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていることや不安なこと要望等に耳を傾け、入居者の個々に応じた関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の情報を通して家族の不安や困っていること要望に耳を傾け、いつでも意見や要望が言えるような関わりに方、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の思いを聞き、入居前の生活状況を知ることで本人の状態と併せて入居後の生活づくりを一緒に考え、実施するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士や職員との相互支援の関係築けるように、入居者個々の得意なことやできることを見極めて、その能力が発揮できるような環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人における家族の役割を尊重し、入居後もその役割が可能な限り継続できるように協力を依頼し、体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の受け入れや訪問等、本人の要望に合わせてそれを支援し、人や場所への馴染みの関係が継続できるように心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が一緒に過ごす環境をつくり、入居者間の関係が適切に保たれるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も認知症に関する相談等に対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、入居者の表情や訴えを傾聴し、本人の思いや希望に沿ったケアの実施に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人と家族から生活状況を聞き、生活の各場面における本人の言動を把握し、本人らしい生活ができるように調整している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の自主的な生活を尊重し、本人の言動を通して心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活において、本人の望む暮らしが実現できるような介護計画を立て、その目標への満足度を本人と一緒に確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施の中で、その時々の本人の状態や言動が把握できるような記録に努め、いつでも誰でもその情報が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じられるような柔軟な支援体制を他部署と連携し取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意思を尊重しながら、馴染みのある地域資源の活用を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を尊重しながら、かかりつけ医や他の専門医の受診を家族と協力しながら適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時の報告や入居者の状態の変化に応じた報告・相談・連絡を行い、入居者の状態の共有と適切なケアの実施に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の治療を優先的に考えるとともに、入院における本人のストレスがないように医療機関との情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から、家族や本人に対し、急変時やターミナルにおけるケアの方針の理解と本人と家族の望むケアの在り方の情報を共有するように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な研修で急変時の対応や応急手当について学び、実際の場面でも看護職や医療機関から積極的に学ぶように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について理解し、訓練を実施し、振り返りを行うことで対応力を身につけるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの自尊心を理解し、個人のプライバシー保護に着目した適切な関わりを常に振り返ることをケアの実践で心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活において本人の自己決定を尊重すること、その機会をつくることを心掛けた関わりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの主体的な生活を尊重し、それが継続できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの能力や希望に応じて支援している。また、本人が自己にてできるような環境の調整にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、食事作りの下準備や後片付けへの参加を促し、一緒に取り組むことで個々の能力の把握や食への関心に働きかけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食習慣や好み、日々の食事や水分量の変動を把握しながら心身の状態把握にも努め、情報の共有と状態に応じた対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者一人ひとりに適した口腔ケアの支援を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じたトイレでの排泄の支援を行い、本人の自尊心やプライバシーを損なわないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の確認と本人の訴えを把握し、不安や不快感の除去、生活の見直しを含めた本人支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの要望に沿った入浴支援を行い、満足できるような入浴ができるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が安眠できるような寝具や睡眠環境の調整を行い、また日中の活動や関わりが適切であるかの見直しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容を把握し、変更時は観察と情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの楽しみ事を把握し、関われる機会をつくるようにしている。日々の生活の中で笑顔になれるようなレクリエーションを取り入れたり、関われるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿えるように家族と協働しながら外出支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の理解を促し、本人の安心感や満足感が充足することの意義として支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者個々の希望に沿って電話をかけたり、手紙のやり取りの支援を行い、本人が人とつながることの大切さを理解し、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が気持ちよく過ごしていただけるような空間作りに配慮し、光や音を調整している。季節感を感じていただけるように花や飾りを置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で入居者がそれぞれ思い思いに過ごせるように、場所の誘導等を配慮して行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の使い慣れた家具等の持ち込みや好み、生活動線を把握して居室の環境作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの認知、身体機能を把握し、本人が自分でできることや分かることを継続できるような環境づくりと支援を行っている。		

（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人　社団　昭和会		
事業所名	グループホーム　むつみ苑（桃）		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	令和　元年11月5日	評価結果市町村受理日	令和1年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和　元年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体施設が医療機関なので入居者の健康管理や医療的な管理等も本人の生活を尊重しながら行える。急変時の対応も迅速に対応できるように体制が取られている。入居者の生活に機能訓練を目的としたレクリエーションや運動を専門職と連携しながら取り入れることで、生活を基本とした身体機能の改善や精神状態の安定を図っている。敷地内に院長が作っている畑があり、季節の旬の野菜を食事作りに取り入れ、入居者に食べていただいている。施設内は昔ながらの家具や古道具を配置し、日々歌や体操などのレクリエーションや家事作業への参加を促しながら入居者同士、職員も含め馴染みの関係を築けるような環境作り関わりに努めている。職員一人ひとりが入居者の笑顔のある暮らしを心掛け認知症ケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者を地域の中の一員として地域の中で普通の暮らしを継続できるように入居者一人ひとりに適した支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各機関との交流や散歩、催事への参加等を入居者の生活の中に取り入れて、地域とのつながりの継続を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の面会や地域との交流の中で認知症の人である前に一人の親、家族、地域で暮らす人として理解していただくように、地域と関わっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所も入居者も地域に在るという視点に立ち、ケアの取り組みや行事の実施状況等、入居者の反応や表情を併せて報告することで、その意義について参加者との意見交換が図られている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所や入居者の状況や地域や法人を利用する人のニーズを担当者と共有し、地域における事業所や行政の在り方について意見交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学びながら、職員一人ひとりの認識を図り、対応に苦慮する場合はユニット間や職員間で連携し、また管理者への応援や他部署との意見交換を行いながら身体拘束のないケアの実施に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学び、職員の対応力やストレスの実態を把握し、適切なケアのできる職場環境作りに取り組んでいる。また、入居者一人ひとりに適したケアについて職員間で意見交換できるように職員の関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解に努め、入居者の状況に応じて制度の利用を検討し、必要な時には各関係機関と連携して制度の利用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び書面において説明を行い同意を得ている。不安や疑問においてはその都度対応できるように体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会に参加されたときに声をかけるように心掛けている。また、日々のケアの中で入居者の意見や希望があれば必要に応じて管理者と協議し、運営に反映できるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月朝礼のあとに管理者を含め職員参加のミーティングを行い、各ユニットの職員の意見をいう場を設けている。また、それ以外でも職員がケアの現場でやりたいことを実践できるような体制整備等工夫を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員個々の意見や要望の聞き取りを行い働きやすい環境作りに努めている。職員の能力に合わせた業務内容の調整や役割等、向上心を持って働けるような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせて事業所内の研修の実施と外部の研修への参加を促している。また、資格取得に向けた勤務の調整や指導を行い支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の事業所間の交流会や勉強会への参加を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、本人と家族から情報を得て、本人の不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自分たちの実施しているケアについて説明し、信頼していただくとともに、安心されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々の状況に応じて職員や家族と状況の把握に努めて適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していることを常に意識して、入居者一人ひとりを尊重しながら信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会等で小まめに声をかけ、関係を築くことで本人の情報を共有しながら相互の協力体制を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で馴染みの話題を取り入れたり、出掛けて行くようにしている。また、いつでも知人の家を訪問できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係づくりに配慮しながら互いに安心して過ごすことができるように必要に応じて関わりの支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状況や心配事に応じて必要な支援や相談等の対応を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の入居者の表情や言動をよく観察して、職員間で情報を共有しながら本人の思いや希望に応じたケアの実施に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人と家族からの情報の収集と共有に努め、生活の中での本人の言葉や行動の意味を考えながら、本人の望む暮らしの在り方を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で本人の主体的な言動を尊重できるような関わりに努め、本人の心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを汲み取り、望む生活の実現に向けた必要な支援を職員、家族で話し合い、介護計画を作っている。生活の中で本人の状態の把握や家族からの情報をもとにモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人の言動やケアの実践に対する本人の状態や反応を記録することで情報として共有し、本人に適するケアの実践の情報源として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて柔軟な支援ができるように法人内の部署間や他事業所と連携し、多機能的な支援体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力が十分発揮できるように地域資源に働きかけ、協働している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医への受診も継続し、本人が適切な医療を受けることができるように専門医とかかりつけ医が連携できるような情報の提供等の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職看護職関係なく、本人の生活の状態を把握し、必要に応じて観察の重点部分の指示の共有を図っている。介護職も経過を把握できるようにし、医療機関の受診につなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医療機関や職員との顔なじみの関係が築けるように各部署間で連携し、協働している。また、他の医療機関に入院された場合でも入院時の情報提供等の連携や退院時の受け入れ、家族も含めた支援体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や面会の際には本人の状態の変化に応じた家族の意向の確認を行っている。その時々の状態の共有に努め、行っているケアについて説明し理解を得ている。家族の思いも十分に聞き取り職員間で情報の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や看護職員からの指導で急変時の対応について学んでいる。また、他の職員との情報の共有や確認等協力することの重要性を理解している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害に合わせた避難や対策の在り方を検討している。また、分かりやすい掲示物を工夫している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心を傷つけないように、配慮したケアに努めている。また、職員間で確認し合い改善できるように協力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自身の思いや希望を表出することができるように日頃から何でも言い合えるような関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中での本人の思いや主体的な行動を尊重し、必要に応じて適切なケアの実施に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の主体的な行為を継続し、希望に合った身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けへの参加を本人の意思に合わせて行っている。職員と一緒に行うことで食材に関する話題や入居者の家事へのこだわりを聞いて楽しく取り組めるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事や水分の摂取状況の把握に努め、栄養の偏りや不足時には看護職と連携し身体状態の観察に努めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入居者それぞれに必要な口腔ケアの支援に努めている。また、口腔状況の把握に努め、食事への影響や肺炎等の予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々のリズムに応じた声掛けや誘導を行い、羞恥心や安全面に配慮した排泄ケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や排便の状態把握に努め、それぞれのニーズに必要なケアを検討し、対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その都度入浴に関する意思確認を行い、個々の生活リズムやスタイルに合わせた入浴の支援を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々のライフスタイルや身体状態に合わせた活動や休息の取り入れに努め、寝具類等もその時々に合わせて安心して休めるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の把握に努め、変更時には状態観察に努め、職員間の情報の共有に努めている。また、本人の負担にならないように、密に医師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の関わりの中で興味や関心のあることを引き出し、生活の中で個々の楽しみや役割を見出し取り組めるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と協力しながら本人の希望に沿えるように支援している。また、地域の知人の家にも気軽に出かけられるように理解と協力を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の理解を得て、叶う範囲で本人が金銭を所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要に応じて電話の使用や手紙を書いて出すことに必要な支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が心地よく生活できるような環境作りに努め、花を飾り季節感を演出している。光や音、室温等によって不快感が生じないように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での各々の過ごし方を尊重し、必要に応じて適切な関わりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具類の持ち込みを促し、本人の身体機能や使い勝手に合わせた配置や環境作り等、安心して過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の心身機能の把握に努め、できることや分かることの活用とできないこと分からないことへのアプローチ法を検討し実践している。		